

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年12月28日
タイトル	「くわい」の収穫を体験したよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年11月24日（火）福山市立新涯小学校5年生約130名が、新涯小学校の近くのほ場で「くわい」収穫の見学と校庭の「くわい」の収穫をしましたので、その様子取材しました。

新涯小学校5年生は、一年を通じて、地域の特産物である「くわい」についての学習に取り組んでおられ「くわい」の出前授業や水土里ネット福山組合員の村上孝之前副理事長のほ場で「くわい」の植付け体験をし、校庭のミニ田んぼで「くわい」を栽培していました。

「くわい」の収穫時期を迎え農家の収穫を見学させてもらい、自分達のミニ田んぼの「くわい」を収穫することとなりました。

見学するほ場近くの公園で、まず出前授業でお世話になった水土里ネット福山の枝廣義春理事より収穫方法について教えていただきました。



ほ場近くの公園に集まり、くわい実行委員の子ども達が司会をつとめ、枝廣義春理事よりお話を聞きました。

くわい収穫は水中ポンプを使うことやくわいの実は土の中の茎の先端についていることなどを聞きました。

収穫の見学は、水土里ネット福山の組合員 種本守雄さんのほ場で行いました。ほ場に着くと、種本さんが子ども達に見やすいように、道路側を収穫しておられました。みんなで大きな声で挨拶をし、収穫しているところを見学します。人数が多いので少しずつ移動しながら見学しました。

事前に種本さんが用意してくださった実がついたままの「くわい」を見て、「くわい」がどの部分にできるのか確認できました。水中ポンプの威力を見せるため、種本さんが水中ポンプの先を空に向けると、消防車の放水のように勢いよく水柱が上がり、風に吹かれて水しぶきがかかって、子ども達が一斉に悲鳴をあげました。

みんな水しぶきがかかっても、なぜか嬉しそうでした。すぐ目の前で収穫してくださいましたので、よく見学することができました。子ども達は、学校のくわいを収穫するためほ場を後にしました。



水圧でくわいが茎ごと浮いてきます！



浮いてきたくわいを網で掬っています！

学校では、人数が多いので「くわい実行委員」の子ども達が代表して収穫し、その他の子どもは「くわい」を洗いました。

学校のくわい畑は、花壇のようになっていて水を抜くところがなく水をためた状態で収穫となりました。「くわい実行委員」の子ども達は、みんな収穫は初めてで、なかなか畑に入ることができませんでしたが、恐る恐る入ると少しずつ慣れて土の中に手を入れてくわいを掬い上げるようになりました。茎を引っ張るとくわいが取れて土の中に残ってしまいます。「一つの株に50個のくわいがあるんよ！」と発破をかけ、「もっと深く掬わんといけんよ！」と言うと、次第にコツを掴んで土の中から「あったー！」と見つけれられるようになりました。

やっとコツを掴んだ頃に、給食の時間となり収穫を止めなければいけません。子ども達は土の中にまだくわいがあるのを手応えで感じたようで、先生に「放課後に続きをさせてください。」とお願いしていました。



水の中で、くわいの収穫が難しいなか、みんな一生懸命に寒さに耐えて素手で掬っていました。

収穫したくわいは、タライでよく洗います。ミニ田んぼに入ってくわいを掬う子、茎などのゴミを集める子、タライまで運ぶ子、タライで洗う子と役割を決めて全員で協力して収穫しました。

水に入ったり、洗ったりと寒さが身に染みて、くわい農家の方の苦労が実感できたようでした。

子ども達から、くわい収穫の感想文が届きました。

— 子ども達の感想文 —

くわいは、1つのかぶに50個ほどついていることがわかった。くわいは水にういているのもあったけどだいたい土を深くほらないといけなかったから、くわい農家の方が水圧ポンプを使っているりゆうがわかった。いつもはくわいはやわらかくたべれるけど、生のクワイはすごくかたかった。大きいくわいは小さいくわいより深いところにあった。それに比べて、小さいくわいはいろんな深いところや浅いところにちらばっていた。くわいを取りだしたときにくわいのまわりにヌルヌルとしたかんじの黒いものがついていた。学校のくわいをうえているところで、けっこうなじかんがかかっていたので、くわい農家さんはもっとたいへんなだろうと思った。

5年生

わかったことは、かかしは、カラスのためにあると思っていたけど、カモのためにあるとわかった。苦勞しているんだなあーと思った事は、朝の6時ぐらいから仕事にとりかかっていることです。わたしのおきる時間に始めるのは、早いなあーと思って、苦勞しているんだなあーと思いました。

工夫は、カモがこないように、どこの畑もかかしをしているところが工夫だと思いました。

気付いたことは、朝6時におきてでも、くわいのことを大切にそだてようという農家の人の思いに気づいた。もう一つあります。もう一つは、工夫とも同じかかしがある事に気づきました。

今日みたことを、自分たちでうえたところにもいかそうと思いました。

5年生



くわいの収かく作業を見てわかったことは、水圧ポンプでくわいをうかせてとることです。水圧ポンプでくわいをうかせてとること、かたい土の中から手でほり出すよりも、うかせたものをとるほうが、楽にとれるので、良いことがわかりました。そして、くわいのつき方は、こんなふうについているのがわかりました。気付いたことは、とったばかりのくわいの色が青いことです。料理にしたらクリーム色みたいな色になるのに、とったばかりのクワイは意外と青くてびっくりしました。そして実が意外とかたかったです。11月24日(火)は、646ことれました。でもくわい畑をよくみると、まだくわいがたくさんしずんでいました。できるだけ全部とってくわい料理をつくりたいです。

5年生

クワイは水圧でうかせとることが分かった。

一つのなえに5~6個はクワイがついていることが分かった。

クワイはカモが食べにくることが分かった。カモが食べるから、かかしをたてていることも分かった。

しかもカモはクワイをそのまま食べることが分かった。

学校の畑1つで600個ぐらいとれることが分かった。

水ぐもみみたいな赤いくもがくわい畑にもいることが分かった。

ぼくはもし次くわいほりをする時は

芽をおらないようにクワイほりができたらいいなと考えました。



5年生

「くわい」収穫を見学し、それを参考に校庭の「くわい」収穫しました。子ども達の感想文には、実際に収穫を体験しなければ気付かなかった事が沢山書かれていました。今まで、店頭に並んでいる「くわい」や、調理された「くわい」しか見ていなかったの、収穫される前の畑での状態や収穫の方法、収穫したものをよく洗浄しなければならないことなど、貴重な体験をすることができたと思います。今回収穫した「くわい」を使い、子ども達が考えたレシピで調理をするそうです。引き続き取材したいと思います。